

研究室紹介「絵画研究室」

美術教育講座、身表美術専修の中で主に絵画を研究する学生が勉強しているのが絵画研究室です。

担当は比留間良介先生。現在、学部生8名、院生3名が在籍。主に洋画



(油彩画・アクリル画・デッサン)の実技指導と理論を経て卒業制作・副論の指導を受けます。指導の特徴はなんといっても「構図・構成」にうるさいこと。初めて比留間先生の絵を見た方は「？」と思うかも知れませんが、あの絵は計算されて描かれているのです。(簡単に言えば文章における構成が絵にもあるということです)まあそんな事、多分、皆、先生に習うまでは考えたことなかったと思うのですが、このおかげで作品完成間近になってダメ出しされたりすることもしばしば。

もう一つの特徴は「公募展にチャレンジ」でしょうか。県展・市展はもちろん、全国規模の公募展にも出す事を奨励しています。それは自己満足の絵に陥らないようにするためです。比留間先生の制作スタイルは電動グラインダーで絵を描いたりする工程もあり意外性が有りますよ。厳冬の中、美術棟の入口で公募展のポスターを貼り替えるなど、われわれを励まそうとする姿はまだ元気そのものです。

記事：大学院教育学研究科 教育専攻美術教育専修
美術分野1回生(絵画) 尾西 啓亮

クラブ紹介「バスケットボール部」

こんにちは! バスケットボール部です☆私たちは毎年3月に開催される『全国教育系10大学バスケットボール競技大会』に参加しています。これは、全国にある10の国立大学法人教育系大学が集まって行う大会です。北は北海道から南は福岡まで、たくさんの教育系大学が集まり、真剣な試合や楽しいレセプションを通して交流を深めます。一昨年は宮城開催、去年は大阪開催と毎年開催地が変わるのですが、今年はなんと奈良で開催されます! 普段では試合をすることができないチームと戦うことができるので、部員一同張り切って練習をしています。誰でも見に来ていただけるので、時間がある人はいつでも見に来てください!



日時 平成18年3月16日(木)~3月20日(月) 9:30~
場所 奈良市鴻ノ池運動公園中央体育館
参加校 北海道教育大学・宮城教育大学・東京学芸大学・愛知教育大学・
京都教育大学・大阪教育大学・兵庫教育大学・鳴門教育大学・
福岡教育大学・奈良教育大学

記事：岩久 潤子 (バスケットボール部マネージャー)

天平雲では、次号以降も、クラブ、研究室を紹介していきます。つきましては、うちのクラブは、こんなに楽しい。私の研究室は、こんなに頑張っている等の記事を募集します。希望される方は、学生支援課まで申し出てください。

『日本留学事情』

本学在学中の留学生に日常生活で感じたことを書いていただきました。

A T M事件

マルシャレンコ・ヤクブ <ポーランド>

日本に来てから、四ヶ月がたって、もう日本での楽しい生活に慣れてきたと思います。しかし、吃驚してしまうことがまだたくさんあります。例えば、日本のATMです。欧米では、ATMというのは、現金を使ってしまつて、銀行へ行けないときに使うものです。一方、日本ではATMを銀行の勤務時間にしか使えません。どうしてでしょうか。銀行へ行けたら、ATMは要らないのではないのでしょうか。



ある日、こういうことがありました。確か、一月二日から三日でした。お正月の休みの日でした。休みだったので、時間もあつたし使つてもいいお金もあつて、何か面白い本かDVDを買おうと思ひ、寮から離れたデパートへ行くことにしました。遠いところまで歩くのは面倒くさいと思つて、バスで行こうと思ひました。しかし、財布の中身を見て、そこには十円もなかつたことに気がつきました。「あそつだ。昨日遊びに行ったとき、全部使つてしまつたんだ。」と思ひ出して、仕方なく歩き始めました。現金がないと分かつたら、郵便局に行かなければならないことになりました。「休みだから、近くにある郵便局は小さくて絶対無理だな」と思つて、ほかの銀行のATMを使うことにしました。しかし、驚いたことに、銀行とそのATMは全部閉まつていたようでした! どうしようもなくて、歩き続けました。どこかのATMは動いているはずだと思ひました。奈良中央郵便局まで着いて、言葉で表せないほど嬉しいことに気がつきました。郵便局は開いていました!

嬉しさに心を躍らせて、にっこり微笑みながら郵便局に入りました。ところが、そのATMも閉まつていました。「まあ、郵便局が開いているなら、ATMではなくても、お金をおろせるはず!」と思つて、事務員のところへ行きました。「すみませんが、ATMは使えないから、どうやってお金をおろせるのですか。」「そうですね。明日にならなかつたら、無理ですね」と申し訳なさそうな顔をした事務員が答えました。私はがっかりして、何も買わず寮に帰りました。

教訓：日本では、いくらお金持ちでも、現金がなかつたら、何も買えません。

冬に出会った日本の文化

アサワルアンスワット アムポーン <タイ>

私が日本へ来てから、だいぶ生活に慣れてきました。しかし、ひとつなかなか慣れないことがあります。熱帯の国から来た私にとって慣れていないことといえば、誰でもわかるでしょう。ピンポン! 寒さです。タイでは一年中暑いので、日本で冬を過ごすのはかなり辛いです。外の道を歩く度に冷たい風が吹くと、耳と頭が痛くて骨まで刺すような気がしました。この時にはいつも、「温泉が銭湯に入りたなあ!」と思つています。

温泉と言えば、外国人にとって、裸のまま入るので、恥ずかしくて入つたことない人はかなりいるそうです。だけど、私の場合は、日本に来てから温泉が何よりも気に入りました。最初は恥ずかしかったのですが、好奇心の方が多いので一回入ってみました。すると、気持ちがよくて、温泉が好きになりました。そして、先週、奈良に新しい銭湯ができたので、日本の友達と一緒に行って、初めて銭湯を体験しました。銭湯に着くと、思ったより人がいっぱいいて、にぎやかでした。お年寄りの人しかいないと思ひましたが、以外に子供、若者が集まっていました。また、銭湯と言っても、お風呂だけではなく、中にはマッサージ、レストラン、ゲームセンター、美容院などがあります。私はお風呂の後で、友達と銭湯のレストランでお茶を飲みました。その時、周りを見て気がついたことがあります。銭湯に来る人はだいたい自分の子供、親、を連れて家族と一緒に来ています。家族団らんでお風呂に入ったたり、食事をしたりしていました。家にいるようにゆったりとした時間を過ごしていました。テーブルでお茶の湯飲みを持っているおじいさん、ビールを飲んでいるお父さん、アイスクリームを舐めている小さい子供が一緒に座りながらしゃべっているのを見ると、暖かい雰囲気でした。お風呂はストレスを解消し、家族と一緒に過ごす所としてはぴったりだと思ひます。銭湯とは料金を取つて入浴させる場所ということです。江戸時代から現在まで、日本人の日常生活と結ばれて、日本文化の一つと言っても、間違いありません。温泉と銭湯は、日本のシンボルである富士山のように、一度行ってみたいと日本に来たとは言えないでしょう。



※ただ今、留学生チューター募集中。国際交流に興味のある日本人学生は、学生支援課留学生担当へ申し出てください。